

第1回「(仮称)奈良2025」事業基本構想・基本計画検討懇話会の 意見等の概要	
開催日時	令和5年 8月 7日 (月) 午後1時30分から午後3時まで
開催場所	奈良市役所 北棟 6階 602会議室
意見等を 求める 内容等	「(仮称)奈良2025」事業基本構想・基本計画について
参加者	出席者 11人 ・ 事務局 7人
開催形態	公開 (傍聴人 3人)
担当課	観光経済部 観光戦略課
意見等の内容の取り纏め	
事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>1 「(仮称)奈良2025」事業</p> <p>事務局から事業内容等について説明を行い、基本構想を策定するため、意見等を求めたい旨説明。</p> <p>本事業は、大阪・関西万博の開催により、奈良を含む関西への注目と国内外観光客の流入が期待される2025年を目途として、奈良市の持続可能な地域振興に資する特別プロジェクトを推進するものである。</p> <p>このプロジェクトでは、奈良の魅力の源泉となった国際交流の価値に着目し、持続可能な「歴史文化・国際交流都市」のモデルを構築し、世界に発信する。</p> <p>事業実施にあたっては、奈良が歴史文化・国際交流都市として有する資産を基盤として、奈良市の将来に向けての課題を適切に認識した上でのプロジェクト推進を目指す。</p> <p>このため、次の3つの方向性を柱として全体事業を進めていく。</p> <p>①奈良の魅力の深耕と発信 ②世界の歴史都市との交流 ③新たな付加価値の創造と創造的人材の育成</p> <p>また事業は、2024年にプロジェクトのプロセスとなる以下の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Creative Exchange (人材交流事業) ・Creative Challenge (新付加価値創造事業) ・奈良ドキュメント30周年シンポジウム <p>その成果を基盤として活かしつつ、2025年に以下のアウトプットプロジェクトを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良・サマルカンド特別交流展 	

- ・奈良サローネ
- ・世界・歴史文化都市サミット
- ・奈良の魅力・国際発信プロモーション

加えて2025年における事業開催を目的とするだけでなく、事業年以降に継承可能なプロジェクトの実現を目指す。

<出席者からの意見等>

○全体構成についての意見

・大阪・関西万博を一つの契機として奈良の地で開催されるプロジェクトであり、事業コンセプトを「歴史文化・国際交流都市」創造プロジェクトとしている。国際交流あるいは文化交流をよりすすめていくなかで、世界の相互理解あるいは平和ということにつながることに、奈良市として貢献していけるような事業となれば良い。

・関西全体として大阪・関西万博を契機にいろいろな事業が取り組まれている中、奈良の魅力を世界に向け発信することができる大きな機会と考える。

・本事業は大阪・関西万博開催である2025年を事業実施年として取り組んでいこうとしているが、さまざまなことが奈良から始まったということ踏まえて、2025年から始まる新たな事業につながる第一歩となるようなものにしていきたい。

・イベントは手段であって目的ではない。2025年は万博をはじめ非日常が主体となる年になる。2025年の後に、奈良の観光のあり方が変わるような節目の年にできれば良い。

・そのためには、市民と地元企業が盛り上がらないと結果はついてこない。この部分をしっかり構想に盛り込むことが大事。

・本事業の開催理念には地域振興に資する特別プロジェクトを推進するとある。であるならば、「持続可能な」という表現については、どちらかといえばグリーンエネルギーを思わせるものであり、少し言い古された感がある。より地域振興、都市としての発展につながるような別の表現によって今回の開催理念を表現することが望ましい。

・先に経験した、オーバーツーリズムの状況を考えた対応を検討すべきである。奈良の魅力を発信するためには、京都を目指してはいけない。奈良の魅力の源泉となったものはなにかをしっかりと表現できる事業としてほしい。

・京都と奈良、風土環境が異なる文化をそれぞれ育ててきている。奈良らしさ、奈良の国際性を活かしたプロジェクトとなることを期待する。

・海外から奈良を訪ねる観光客は知識レベルの高い層が多いが、宿泊地としては京都・大阪を選ぶ傾向は変わらない。近年奈良でも高級ホテルの建設が見られるようになっているが、長期滞在型の観光にシフトすべきである。夜がもっと賑わうような取り組みが求められるように思う。サロンなどが開かれる環境を作ることとも必要ではないか。

- ・浅草には年間 3000 万人の観光客が訪れている。例えば伊勢神宮などもそうであるが、寺社による厳格な「聖」の部分に、「俗」の部分が近接して存在している。この辺りも魅力となっているところであるが、奈良には見られないところである。「俗」の部分の構築することがサステイナブルな観光に繋がることへの認識も必要。
- ・今回の事業では、交流人口を増やし、多くの人々の出会いの機会を高めることが重要。
- ・奈良サローネとする見本市の構成によって、奈良の夜の楽しみ方の新たな展開が構築されることを期待する。
- ・日本人は、奈良のことを知っているつもりであるが、その本質的な魅力を理解している人は少ない。海外へ奈良の魅力を発信することと共に、日本人への情報発信も必要。
- ・海外情報発信のグローバルマガジンなどを通じ、京都など他地域を旅する海外旅客に対して、奈良のことをうまく発信することも必要。
- ・今までの文化がシルクロードを通じた国際交流につながることを理解してもらうことも欠かせない。
- ・2025 年に合わせて、奈良の昔からの国際交流を知ることは大事。ただし、昔こんなことがあったで終わらせず、未来に繋げる要素を必ず構築することが必要。
- ・事業自体を専門的な視点のみで捉えるのではなく、若い人たちの視点を取り込み、新しい発想による企画で実現することも必要。
- ・企画は、一般の来場者にとってワクワク感のあるものにしないと、事業自体が成り立たない。
- ・若い世代にどのように関心を持ってもらえるかは大事な視点である。未来へのメッセージを彼らから発信してもらえるような機会を設けたい。
- ・新しい視点を持つ若手のアーティスト、建築家などにつながることで展開を期待したい。
- ・国際的な視野を持ってもらうためにも、学生の活躍に期待したい。
- ・奈良の伝統文化の自認につながるような、学際的な交流の場としての奈良の在り方として、いわば国際交流の「まほろば」を構築できれば。
- ・子供達にどのように奈良の文化の本質を伝え、文化を伝える担い手に育てることができるかの検討も必要。
- ・国際交流の一つの方策として、奈良の伝統的文化であり、奈良教育大学に専攻科のある書道を中心に据え取り組むことも魅力的なこと。
- ・2025 年日本博での取り組みも視野に、日本の文化芸術を国内外へ発信する展開を期待。
- ・奈良の中心にはサンクチュアリとしての奈良公園がある。しかも単なる自然公園ではない、世界遺産を包括する奈良公園という稀有な公園文化を有している。唯一無二の公園都市であることの特徴を生かした事業展開となれば魅力的。

○各プロジェクトに関する意見

- ・奈良サローネでは、奈良からの発信に海外のアーティスト・建築家などが反応し、さらなる展開へと発展する仕組みを作ることが必要。
- ・企業や、地元が参画できるような姿が必要であり、ここで形作られた集まりが母体となって、次の10年につながる仕組みを構築していくことが大切。
- ・次につながる事業として、このサローネを継承していくことが必要であり、2025年以降を見据えた体制が求められる。
- ・奈良ドキュメント30周年記念シンポジウム、歴史文化都市サミットを経て、2028年世界遺産登録30周年を視野に入れた継続企画の検討も期待する。
- ・奈良・サマルカンド特別交流展については、国際交流、歴史文化都市の交流という大きな視点の中での交流展であると考え、単に中央アジアの文物や、奈良に残る文物を紹介するというのではなく、文化の交流の痕跡が見られるようなものに焦点を当てる必要がある。
- ・奈良の魅力を発信する展覧会であることが重要。そのなかで、奈良とウズベキスタンをどう位置付けるかをしっかり考えることが必要。
- ・特別展、世界・歴史文化都市サミットなどを契機として、未来に続く歴史文化都市につながる取り組みが行われることを期待する。
- ・Creative Exchange（人材交流事業）、Creative Challenge（新付加価値創造事業）では、新たな国際交流の担い手となる人材の育成を期待したい。特に若い人たち、学生の積極的な関与を期待したい。若い人の新しい視点を求め、彼らの企画によって実現することが、次につながっていく。
- ・世界・歴史文化都市サミットなどの国際会議で、次につながる10年の戦略などが提案できれば良い。

○事業推進に関する意見

- ・奈良市として取り組む大規模な事業である。実施年まで期間的な余裕はない中で、しっかりとした企画構想とそれを実現する体制が必要である。市をあげての組織づくりを速やかに行う必要がある。
- ・奈良市として積極的に取り組むことが必要であるが、関西万博や他都市との連携、縣市連携も想定した推進体制も必要である。